

建築研究所・政策研究大学院大学主催 セミナー「日本の住宅・建築・都市が直面する中長期的課題と解決方策(Ⅳ)」 ご案内

日本の住宅・建築・都市は、「低環境負荷・持続可能」、「安全・安心・快適」、「少子・高齢化対応」など、多くの中長期的な実現課題に直面しています。本セミナーは、自治体、官公庁、その他企業・団体の方を主な対象として、建築・住宅・都市に関する政策の理論・実証分析や、建築・まちづくり実務での政策立案・事業推進手法に関する研究成果の公開・普及を通じて、人材育成に資するために開催するものです。

開催日時 2015年1月14日(水) 13:30～16:30

会場 政策研究大学院大学・1階・会議室 ABC

<http://www.grips.ac.jp/about/access/>

主催 独立行政法人建築研究所・国立大学法人政策研究大学院大学

参加費 無料

申込方法／問い合わせ先 氏名・所属・役職・連絡先をご記載の上、1月13日10:00迄に、下記宛てメールにてお申し込み下さい。また、本件に関する問い合わせも、下記宛メールにてお願いいたします。

政策研究大学院大学 舟田 E-mail: funada@grips.ac.jp

プログラム

	時間	演題	概要	講師
1	13:30	開会		
2	13:35 ～ 14:15	講演「コンパクトシティが地方財政に与える影響の分析」	日本の地方都市は、人口減少・高齢化や施設の維持更新需要の増大などにより、厳しい財政状況や経済活力の低下などの課題に直面している。これに対応するため、都市の人口や諸機能を中心に部に集約化するコンパクトシティの推進が提唱されている。本講演では、コンパクトシティが地方財政に与える影響を分析し、その効果について分析し、この政策を推進する上での課題を明らかにする。	沓澤 隆司 政策研究大学院大学 教授
3	14:15 ～ 14:55	講演「アジア蒸暑地域における低炭素型戸建て住宅設計技術の方向性」	アジアの蒸暑地域には世界の人口のおよそ1/3の人々が暮らしている。この地域では今後急激な経済発展に伴うエネルギー消費の急速な増大と、温室効果ガス排出量の増加が懸念されている。そのためのアジア蒸暑地域の気候特性や住文化に根ざした遮熱、排熱、結露対策を中心とした建築研究所が開発している省エネ関連技術とその方向性について紹介する。	岩田 司 建築研究所 住宅・都市研究グループ 主席研究監
4	15:10 ～ 15:50	講演「建築物における節水化技術の効用」	建築物の節水化は、通常、建築物単体の水使用量削減という観点のみで評価されるが、大幅な節水化により、雨水の有効活用、省エネ・省CO2、災害時対応性の向上等、様々なメリットが生ずる。本講義においては、建築物における節水技術の現状と大幅な節水化によってもたらされる様々なメリットについて概説する。	山海 敏弘 建築研究所 環境研究グループ長
5	15:50 ～ 16:30	講演「周辺地域と一体的に整備された団地再生事業の効果分析」	近年の公的賃貸住宅団地の再生事業では、自治体とも連携し、隣接地域における市街地再開発事業や都市計画道路・駅前広場の整備事業などと一体的に実施された事例が少なくない。周辺地域の市街地整備にも貢献しているこのような一体的整備型の団地再生事業の効果について、計量的に計測する手法を解説する。	久米 良昭 政策研究大学院大学 教授
6	16:30	閉会		